



ニッセイ宇宙関連グローバル株式ファンド【愛称：スペース革命】
(年2回決算型・為替ヘッジあり)／(年2回決算型・為替ヘッジなし)／
(資産成長型・為替ヘッジあり)／(資産成長型・為替ヘッジなし)

「国際航空宇宙展2018東京」訪問レポート

- 2018年11月28日～30日に「国際航空宇宙展2018東京」が開催されました。
- 弊社マーケティング担当者が実際に当展示会を見てまいりましたので、会場の様子を写真とともにご紹介いたします。

国際航空宇宙展2018東京

2018年11月28日～30日に、東京ビッグサイトにおいて「国際航空宇宙展2018東京 (JA2018 TOKYO)」が開催されました。一般社団法人日本航空宇宙工業会が主催するこのイベントは、数年に1度日本各地で開催されており、今回で15回目となります。弊社の『スペース革命』マーケティング担当者が実際に当展示会を見てまいりましたので、会場の様子を写真とともにご紹介いたします。

今回は国内外の520の企業・団体が出展し、3日間で延べ27,000人を超える来場者が訪れました。各ブースでは商談を行う様子も見られ、宇宙関連ビジネスが活気づいていることが伺えました。また、各ブースでの展示だけでなく、JAXA(宇宙航空研究開発機構)や経済産業省による講演も行われました。事前予約で満席となる講演もあり、宇宙に対する関心の高まりを実感しました。



※当資料中の写真は「国際航空宇宙展2018東京」会場にてニッセイアセットマネジメントが撮影したものです。また、当資料中で紹介している企業については、特定の銘柄を推奨するものではなく、当該銘柄を組入れることを保証するものではありません。

さまざまな宇宙関連企業が出展

宇宙へのアクセス - ロケットの製造・打上げ -

近年では、大企業からベンチャー企業までさまざまな企業がロケットの開発や製造に取り組んでいます。

一口に「ロケット」と言ってもさまざまなものがありますが、例えば三菱重工のブースに展示されていた模型を見ると、シンプルな形状が印象的でした。しかし見かけとは異なり、求められる柔軟性、高信頼性、低価格を高いレベルで実現するために、最新の技術がふんだんに投入されているとのことでした。



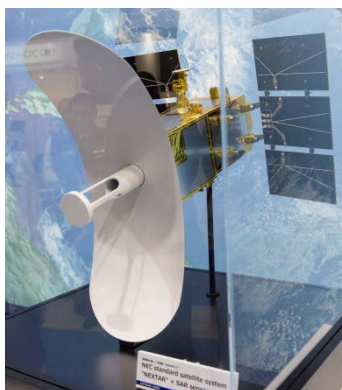
1/25スケールのロケットの模型。左からH2A, H3, H2B。(三菱重工のブースにて撮影)

宇宙インフラの整備 - 人工衛星の製造・運営 -

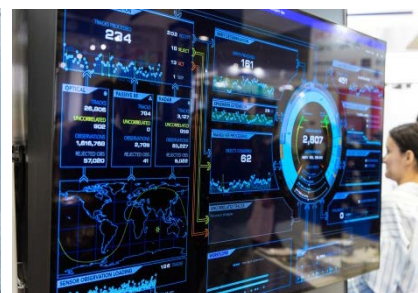
人工衛星は宇宙空間におけるインフラとしての重要性を増しており、稼働する衛星の数は大きく増加していくと見込まれています。

実際に打ち上げられている人工衛星を写真や模型で展示しているブースも多く、最新の合成開口レーダー(SAR)*を搭載した人工衛星なども紹介されていました。また、稼働している人工衛星を地上から観測するシステムも展示されていました。

*Synthetic Aperture Radarの略。移動中に送受信を繰り返しデータを合成することで、仮想的に大きな開口面(レーダーの直径)を実現したレーダー。従来機では難しかった夜間や雲に覆われている地表も観測できる。



SAR搭載の人工衛星の模型。写真手前の白い部分がSAR。(NECのブースにて撮影)

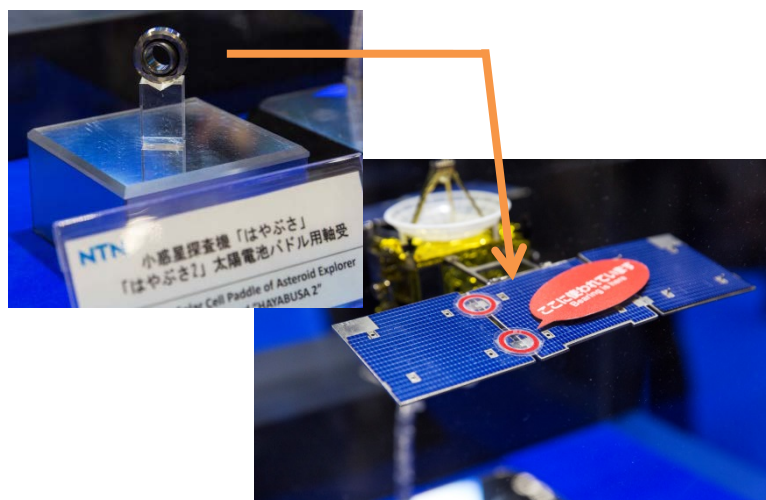


稼働している衛星を観測するシステム(AGIのブースにて撮影)

ロケットや人工衛星の製造を支える部品・システム

ロケットや人工衛星の製造を支える部品やシステムを手がける企業も多く出展していました。過酷な宇宙環境に耐える部品の製造メーカーの他、設計・製造に係る解析・シミュレーションを提供するソフトウェア会社など、多岐に渡る企業によって、ロケットや人工衛星の製造・開発は支えられています。

部品メーカーであるNTNのブースには、話題の小惑星探査機「はやぶさ」「はやぶさ2」に使用された部品(写真)なども展示されていました。

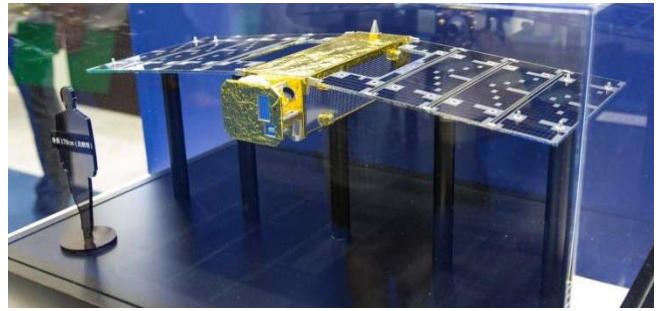


「はやぶさ」「はやぶさ2」に使用された軸受(NTNのブースにて撮影)

小型化が進むロケット・人工衛星

ロケットや人工衛星等の展示が並ぶなか、特に印象的だったのが「ロケット・人工衛星の小型化」です。

従来のロケット・人工衛星は大型で開発期間が長く、費用も巨額になりがちでした。民間企業による宇宙の商業利用が進展し、技術開発競争により小型化・低コスト化が実現。近年では再利用可能なロケットや、手のひらサイズの超小型人工衛星「キューブサット」の開発・実用化も進んでいます。



三菱電機の超低高度衛星技術試験機「つばめ」の模型(1/8スケール)。写真左は大きさを比較するための身長170cmの人の模型。(三菱電機のブースにて撮影)



キューブサットに使われているフレーム(実物大)。名刺と比較すると大きさがわかる。(石敏鐵工のブースにて撮影)

会場には小型衛星の模型や、キューブサットに使われている実物大のフレームなども展示されていました。

話を聞いてみると、各社ともますますの小型化・低コスト化を進めるとともに、宇宙からのデータを活用するためのインフラとしての役割を果たすべく、安定的な供給をめざしていく、と強調していたのが印象的でした。

今回の訪問を通じて、大小さまざまな企業が宇宙の商業利用にビジネスチャンスを見出していることを改めて実感しました。

【ご参考】技術の進歩によって実現した世界最小レベルのロケット



JAXAのブース。写真手前はH2Aロケットの模型。

2018年2月、JAXAは電柱サイズのロケット、SS-520ロケットの実証実験に成功しました。最も小型の軌道ロケットとしてギネス世界認定された同ロケットの打ち上げ費用は、日本の主力ロケットであるH2Aロケットと比べて約20分の1の水準とされています。

<H2AとSS-520の比較>



H2Aロケット

全長：53m
重量：289 t



SS-520ロケット

全長：9.54m
重量：2.6 t

JAXA等の資料をもとにニッセイアセットマネジメント作成

ファンドの特色

- ①日本を含む世界各国の宇宙関連企業の株式に投資を行います。
- ②TCWインベストメント・マネジメント・カンパニーからの助言を活用し、株価上昇が期待される銘柄に投資を行います。
- ③為替ヘッジの有無と決算頻度・分配方針が異なる、4つのファンドから選択いただけます。

(年2回決算型・為替ヘッジあり)／(年2回決算型・為替ヘッジなし)／(資産成長型・為替ヘッジあり)／(資産成長型・為替ヘッジなし)

※販売会社によっては、一部のファンドのみの取扱いとなる場合があります。詳しくは販売会社にお問合せください。

<為替ヘッジの有無>

- 為替ヘッジあり：組入外貨建資産について、原則として対円での為替ヘッジを行い為替変動リスクの低減を図ります。
- 為替ヘッジなし：組入外貨建資産について、原則として対円での為替ヘッジを行わないため、為替変動の影響を直接的に受けます。

<決算頻度・分配方針>

- 年2回決算型：年2回決算を行い、分配金をお支払いすることをめざします。
※分配金額は、委託会社が基準価額水準、市況動向等を勘案して決定します。ただし、委託会社の判断により、分配を行わないことがあります。
- 資産成長型：年1回決算を行います。信託財産の十分な成長に資することに配慮し、分配を抑制する方針です。
※将来の分配金の支払いおよびその金額について、保証するものではありません。

投資リスク

※ご購入に際しては、投資信託説明書(交付目論見書)の内容を十分にお読みください。

基準価額の変動要因

- ファンド(マザーファンドを含みます)は、値動きのある有価証券等(外貨建資産には為替変動リスクもあります)に投資しますので、基準価額は変動します。したがって、投資元本を割込むことがあります。
- ファンドは、預貯金とは異なり、投資元本および利回りの保証はありません。運用成果(損益)はすべて投資者の皆様のものとなりますので、ファンドのリスクを十分にご認識ください。

主な変動要因

株式投資リスク	株式は国内および国際的な景気、経済、社会情勢の変化等の影響を受け、また業績悪化(倒産に至る場合も含む)等により、価格が下落することがあります。
為替変動リスク	<p><為替ヘッジあり></p> <p>外貨建資産については、原則として対円での為替ヘッジを行い為替変動リスクの低減を図ります。ただし、為替ヘッジを完全に行うことができないとは限らないため、外貨の為替変動の影響を受ける場合があります。また、円の金利が為替ヘッジを行う当該外貨の金利より低い場合などには、ヘッジコストが発生することがあります。</p> <p><為替ヘッジなし></p> <p>外貨建資産については、原則として対円での為替ヘッジを行わないため、為替変動の影響を直接的に受けます。一般に円高局面ではファンドの資産価値が減少します。</p>
カントリーリスク	外国の資産に投資するため、各国の政治・経済情勢、外国為替規制、資本規制等による影響を受け、ファンドの資産価値が減少する可能性があります。
流動性リスク	市場規模が小さいまたは取引量が少ない場合、市場実勢から予期される時期または価格で取引が行えず、損失を被る可能性があります。

分配金に関する留意事項

- 分配金は、預貯金の利息とは異なり、ファンドの信託財産から支払われますので、分配金が支払われると、その金額相当分、基準価額は下がります。
- 分配金は、計算期間中に発生した収益(経費控除後の配当等収益および評価益を含む売買益)を超えて支払われる場合があります。その場合、当期決算日の基準価額は前期決算日と比べて下落することになります。また、分配金の水準は、必ずしも計算期間におけるファンドの収益率を示すものではありません。
- 受益者のファンドの購入価額によっては、支払われる分配金の一部または全部が実質的に元本の一部払戻しに相当する場合があります。ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がりが小さかった場合も同様です。

ファンドの費用

投資者が直接的に負担する費用

購入時	購入時手数料 (1万口当り)	購入申込受付日の翌営業日の基準価額に 3.24%(税抜3.0%) を上限として販売会社が独自に定める率をかけた額とします。 ※料率は変更となる場合があります。詳しくは販売会社にお問い合わせください。
換金時	信託財産留保額	ありません。

投資者が信託財産で間接的に負担する費用

毎日	運用管理費用 (信託報酬)	ファンドの純資産総額に 年率1.863%(税抜1.725%) をかけた額とし、ファンドからご負担いただきます。
	監査費用	ファンドの純資産総額に年率0.0108%(税抜0.01%)をかけた額を上限とし、ファンドからご負担いただきます。
随時	その他の費用・ 手数料	組入有価証券の売買委託手数料、信託事務の諸費用および借入金の利息等はファンドからご負担いただきます。これらの費用は運用状況等により変動するため、事前に料率・上限額等を記載することはできません。

- ! 当該費用の合計額、その上限額および計算方法は、運用状況および受益者の保有期間等により異なるため、事前に記載することはできません。
- ! 詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。

取扱販売会社一覧

※ 販売会社は今後変更となる場合があります。また、販売会社によっては、新規のお申込みを停止している場合もあります。詳しくは、販売会社または委託会社の照会先までお問い合わせください。

取扱販売会社名	登録金融機関		登録番号	日本証券業協会	一般社団法人 日本投資顧問業協会	一般社団法人 金融先物取引業協会	一般社団法人 第二種金融商品取引業協会
	金融商品取引業者	登録金融機関					
エース証券株式会社	○		近畿財務局長(金商)第6号	○			
極東証券株式会社(※)	○		関東財務局長(金商)第65号	○			○
株式会社しん証券さかもと	○		北陸財務局長(金商)第5号	○			
大山日ノ丸証券株式会社	○		中国財務局長(金商)第5号	○			
三木証券株式会社	○		関東財務局長(金商)第172号	○			
三津井証券株式会社	○		北陸財務局長(金商)第14号	○			

(※)「資産成長型・為替ヘッジあり」「資産成長型・為替ヘッジなし」のみのお取り扱いとなります。

ご留意いただきたい事項

- 投資信託はリスクを含む商品であり、運用実績は市場環境等により変動し、運用成果(損益)はすべて投資者の皆様のものとなります。投資元本および利回りが保証された商品ではありません。
- 当資料はニッセイアセットマネジメントが作成したものです。ご購入に際しては、販売会社よりお渡しする投資信託説明書(交付目論見書)、契約締結前交付書面等(目論見書補完書面を含む)の内容を十分にお読みになり、ご自身でご判断ください。
- 投資信託は保険契約や金融機関の預金ではなく、保険契約者保護機構、預金保険の対象とはなりません。証券会社以外の金融機関で購入された投資信託は、投資者保護基金の支払対象にはなりません。

委託会社【ファンドの運用の指図を行います】	ファンドに関するお問合せ先
ニッセイアセットマネジメント株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第369号 加入協会：一般社団法人投資信託協会、一般社団法人日本投資顧問業協会	ニッセイアセットマネジメント株式会社 コールセンター：0120-762-506 (午前9時～午後5時 土、日、祝祭日は除きます) ホームページ： https://www.nam.co.jp/
受託会社【ファンドの財産の保管および管理を行います】	
三菱UFJ信託銀行株式会社	